

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 体系化されたカリキュラムに対応した専門領域担当者の配置と履修指導の徹底	→学生の履修状況 (偏在の有無)、不開講科目数、履修指導の有無、カリキュラムマップの作成	B	B			
2. ソシオリテラシー涵養のコースワークプログラムの確立	→コースワークプログラムの整備の周知・公表の有無	A	B			
3. 英語クラスにおける能力別クラスの設置	→英語の能力別クラスの実施・履修の有無	A	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) ソシオリテラシーの涵養を目指した以下のような教育課程を編成している。 前期課程では、科目修得を通して特定の領域・方法に偏ることなく社会学的発想の基礎を幅広く習得する。 後期課程では、多様な専門領域を相互に関連づける知識を習得しつつ博士学位取得の目標を明確にし、主体的に研究を立案、遂行、発表する能力を習得する。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) ソシオリテラシー涵養のコースワークプログラムとして、「先端社会講義A/B」「先端社会研究A/B」に分け、前者を前期課程、後者を後期課程の科目として開講している。なお、Aはソシオリテラシー涵養のベーシック科目として、Bはアドバンスト科目として順次性を持たせている。さらに英語クラスについては英語未修の外国人留学生の英語能力の状況を鑑み、習熟度に合わせたクラス設置を行っている。なお、目標の「2. ソシオリテラシー涵養のコースワークプログラムの確立」、「3. 英語クラスにおける能力別クラスの設置」の進捗評価については、昨年度は1年間の進捗評価を行ったので「A」と評価したが、本年度は、到達年度である2013年度に対してどれだけ進んだかという進捗評価を行ったので「B」と評価した。
その他	

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「目標」1については、「現状の説明」に対応する記述がなく、進捗評価「B」の根拠が不明です。昨年度と同じ進捗評価であっても、なんらかの説明があればよいと思われます。

【学内委員】

○教育課程の内容については、適切なものと思われます。
 ○ソシオリテラシーの涵養を目指した教育課程が体系的に編成・提供されている点は大いに評価できます。また英語クラスについても外国人留学生の英語習熟度に合わせたクラス編成を行っている点が評価できます。
 ○2013年度に向けた目標の進捗に期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・教育課程が体系的に編成されており、また適切な教育内容が提供されている点は大いに評価できます。特に、ソシオリテラシー涵養コースのプログラム確立と実施は優れています。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ その他 履修指導については、学生の履修に偏りがなく、課程を修めるにあたり必要な科目を履修するよう指導教員が指導、確認を行い、その上で履修届を提出するよう指示している。